2022年度 成人看護援助論Ⅰ 単元1:白血病 2022年9月28日(水)

<中溝さんの話を聞いて>

7月になって3年で白血病になって悔しかったと中溝さんはおっしゃっていたが、血小板が正常値の半分以下になって出血も大変だったのに、諦らめずに、治療や検査に取り組んでいる姿をお話しでききとった。強い人だと感じた。私だったら、もう死ぬのかなと毎日、何回も考えるだろうし、ずっと泣いていると思うからこそ、ぼうずにするときの写真の笑顔に本当にすごいなと思った。また、家族や妹さんに頼らずに自分で何とかして生きようとしていることもきいて、本当に周りのことも考えて、自分が今その状況で1番大変で大事な時期に自分以外のことを考えれる人は、数少ないと思うから、かっこいいと思った。

中溝さんの話をきいて、私も看護師としてこれから出会う患者さんと一生懸命に一緒に戦いたいと思った。そのためには、今回白血病についてたくさん中溝さんからも青木先生からもわかりやすく学ばせてもらったように、他の疾病、患者や家族の気持ちについて学んで生かしていく必要があると考えた。

中溝さんが"生きている間は良い時間をすごす"とおっしゃっていたのをきいて、今しか看護の勉強できないし、今できることを精一杯やって立派な看護師になって、悔いのない人生をおくりたいと思った。いつ私も病気になるかわからないからこそ、今の環境に感謝して一生懸命生きようと思った。

2022年度 成人看護援助論Ⅰ 単元1:白血病 2022年9月28日(水)

<中溝さんの話を聞いて>

中溝さんにとって、「看護師さんは家族や友人よりも頼りになった。」という言葉がとても、印象に残った。それくらい治療に対して不安や葛藤があったんだなと感じた。
これまでの学習で、患者さんに寄り添うのが看護だというのを学んできたが、今回のお話を聞いて、当事者の方からの声を聞くと、寄り添うというのはただ単に寄り添うのではなく、言葉をかけてもらったりするとそれが安心感や治療を頑張る糧につながる。「生きる希望を与えてもらえる」そのようなことなんだと学ばせていただいた。
何かの病気になることは、ショックも大きいが、何で自分はこの病気になってしまったのだろうと悔しい気持ちも大きいと思った。
だから、余計、その現実から逃げたくなるかもしれないが、そこから逃げずに生きようという選択肢をとられた行動に、中溝さんは本当に心が強く頑張って生きている姿にすごく感動した。
その行動の元には、青木先生の存在も大きいんだなと感じ、看護師になりたい思いがより一層強くなった。
自分も誰かの心の寄りどころとなってもらえるような看護師になりたい。

2022年度 成人看護援助論Ⅰ 単元1:白血病 2022年9月28日(水)
<中溝さんの話を聞いて>

中溝さんの印象は、とても明るくハキハキとした方で、3年間も入院して病気と闘っていた人にはとても見えなかったです。事前課題で白血病のことを調べてきたり、こうゆう病気だというのは分かっていたけれど生理を止めてたことや、その治療をやめた後の様子だったり自分で調べただけでは分からないような内容でした。
初めに、サングラスを付けてうつった時は、プロゴルファーの方なのでそこによせてかけているのかなと思いましたが、骨髄移植の合併症で失明し、光がよくないからかけていると話されていて、移植後の拒絶反応もものすごくきつくて大変だったんだろうなと思いました。中溝さんのような心が強そうな方でも不安できつくてどうしようもない状態になると思います。そんな時に少しでも元気や希望をあたえれるような存在である看護師になりたいです。

2022年度 成人看護援助論Ⅰ 単元1:白血病 2022年9月28日(水)
<中溝さんの話を聞いて>

中溝さんの話を聞いて、体験談だからこそ分かる白血病と分かった時のリアルな様子が知れたことに加えて、中溝さんの強さと、周りの人の存在の大切さ、言葉の重さを感じました。
生理がとまらないこと、移植した人はドナーができないこと、合併症のことは、自分の勉強や授業だけでは気づくことができなかった所でした。
また、中溝さんの言葉がとても印象に残りました。患者と看護師は、友達のようなものだった、お互いが学んで成長している。看護師は、患者さんの味方だ。血が作れない自分が悔しい。ほうずにするのは、普段できないことだから少しワクワクしていた。私は妹に生かされている。どの言葉も、私には、分かりきれないほどの思いがつまっている重い言葉だと感じました。
そしておもりさんからかけてもらった言葉に背中をおされた、という話を聞いて、私も、患者さんの背中を優しくおすことができるような、看護師になりたいと強く思いました。
患者さんは、患者と看護師ではなく、人と人として接してくれているのだと気づき、私も看護師になったら1人の人として接していきたいと改めて思いました。
貴重な話がきけてとてもいい経験となりました。ありがとうございました。
来週も楽しみにしています。☺

2022年度 成人看護援助論Ⅰ 単元1：白血病　　2022年10月5日(水)
<中溝さんの話を聞いて（2回目）>

今まで自分自身大きな病気を患ったこともなく、友人や家族でも直接闘病生活との関わりが全くないため、中溝さんのお話はとても勉強になりました。1時間という短い時間のなかでも、何度も中溝さんの強さを感じました。そんな中溝さんがおっしゃられた「最初から強い人はいない」という言葉はとても印象深いものです。今当たり前にできている口から食べることができる、ということはどんなに幸せなことか、今何気なく過ごしている日常はとても幸せだということを感じました。看護師を目指すうえで、看護師になりたくない、と思うことも少なくありません。ですが、中溝さんのお話を聞いて、患者さんにとって大きな存在となる、担当が私で良かったと思ってもらえる看護師になりたい、という新しい目標ができました。

2022年度 成人看護援助論Ⅰ 単元1：白血病　　2022年10月5日(水)
<中溝さんの話を聞いて（2回目）>

今回は無菌室に入る前からのお話を聴かせていただきました。
無菌室に入るにあたって、全身脱毛をすることや、身体の中も滅菌するなど様々な処置が必要なのだと知りました。無菌室に入ってからの治療が大変だと今まで思っていましたが、入るまでの処置や、精神的な不安も大きいのだと感じました。
その中で、講演中、度々実際の写真を見せていただく機会が多かったですが、中溝さんはいつも笑っていらっしゃったように感じました。無菌室解放後、食事を3時間経口摂取できないといわれてから気分が落ちこんだと話されていましたが、母様の支え、自分を生かしてくれた人たちがあるからと立ち直られたということ、すごく胸をうたれました。
自分が落ちている時は何をしてもネガティブなイメージがどうしても頭から離れなかったり、理解していてもこころが追いついていなくてこころにもない行動、発言をしてしまうことがあります。看護師を目指している立場として、1番こうした時に支えたいし、支える術を持っていたいと強く感じました。
また、絵手紙といった自分を表現できるものというのは、闘病生活中、どうして表したらよいかわからない不安をぶつける場となり、自分と向き合うものとなるのかなと感じました。
病をきっかけと言えるような経験を自分の糧として強く生きる姿、私もそうありたいと思います。

2022年度 成人看護援助論Ⅰ 単元1：白血病　　2022年10月5日(水)

＜中溝さんの話を聞いて（2回目）＞

前回の話をきいたとき、「生きている間に良い時間をすごす」という言葉をきいて、今の生活があたり前ではないことに気づき、今の環境に感謝して生活しようと思った。

今回2度目の話をきいたとき、無菌室に入ったり放射線治療、抗がん剤治療など健康な時とはかけ離れた生活を経験されていて、でもつらいときも「平気！」と頑張っている姿を写真や言葉から想像するとやっぱり、中溝さんは強くてかっこよくて私もそのような人になりたいと思った。でもそんな中溝さんにも移植を終えて、無菌室から一般病棟にうつったときに免疫反応が出て食事が3年できないときいて、途方にくれた"落ち込みました"といわれていた。そりゃそうだと思った。人は食べないと生きていけないし、命をつなげないのに3年も食べれないなんて、私には想像できない。点滴を私はやったことはないけど、点滴で栄養は補えても、心の空洞食べれない。つらいという気持ちはうめられないと思う。カーテンでしめきられて、しばらく、食べ物の温かさも得られない状態で、中溝さんは落ち込むのをやめ、みんなのためにも早く治そう、明るくいよう！と気持ちを自ら変換できていることに私は感動した。私は今悩んでいることがあるけど、そんな悩みはちっぽけに見えた。

私も中溝さんのように強く、人に笑顔を与えられる人になりたいし、なります！

2022年度 成人看護援助論Ⅰ 単元1：白血病　　2022年10月5日(水)

＜中溝さんの話を聞いて（2回目）＞

中溝さんの白血病の治療や骨髄移植での体験をきいて本当に長い間自分だけしかいない部屋で病気と闘い続けることは、自分が想像できないくらいきつく、つらいことだと思うのに、それを乗り越えてその時の体験を私たちに話して下さる中溝さんは、その時のつらい体験も今の自分を作ってくれた経験として大切に思っているんだということが伝わってきた。3年間大好きなご飯を食べれず当たり前に人間ができる生活が出来なくなってしまった中溝さんが伝えて下さった当たり前のことができなくなったときの苦悩は、もし自立した生活ができなくなった患者さんに寄り添うときに、いつも前提に忘れないでいようと思った。

今ある生活が本当に当たり前のことじゃないと思ったし、いつ自分に何があるかわからないので、今自分がやるべきことをしっかりやっていこうと思った。